

（記者発表⑥）

杵築市商工会と大分県漁業協同組合杵築支店との水産物消費推進協定

杵築市商工会と大分県漁業協同組合杵築支店との水産物消費推進協定締結式

【日 時】平成29年8月29日 定例記者会見終了後（14：30頃～）

【場 所】杵築市役所本庁舎 2階第2会議室

【目 的】大分県漁業協同組合杵築支店では、ハモやカキをはじめとする「杵築で漁獲された水産物」を「杵築市内で消費する」を一つの目標として事業推進を行ってきました。今までは杵築市商工会との連携が無かったため、市内への流通先の確保が出来ずに、水揚げされた水産物のほとんどが県外へと出荷されている現状にです。

そこで、平成27年11月に水産物の市内飲食店等への流通及び消費をとおした地域活性化を目的とした、「杵築市水産物消費推進協議会」を設立しました。この協議会は、杵築市商工会、大分県漁業協同組合杵築支店、杵築市観光協会、大分県（東部振興局地域振興班、水産班）、杵築市（商工観光課、耕地水産課）から構成され、商工会と漁協及び行政の連携による水産物の販売促進は大分県内で初の試みとなります。

この協議会の中で、骨切りハモ流通の要望が多くあったことから、大分県漁業協同組合杵築支店は、平成28年10月に、大分県及び杵築市の補助により、ハモの3枚おろし機、骨切機及び冷凍・冷蔵設備を導入（別紙参考）し、同年11月から供用を開始しました。

このたび、杵築市商工会と大分県漁業協同組合杵築支店が連携を密にし、ハモを中心とする水産物消費を推進する事を目的に「水産物消費推進協定」を締結します。

【連携して取り組む主な内容】

1. ハモを中心とする杵築市内で漁獲された水産物の大分県漁業協同組合杵築支店と杵築市商工会による宣伝及び販売促進
2. 杵築ハモ取扱店の設置及び拡大
3. 大分県漁業協同組合杵築支店が骨切り加工したハモのブランド化
4. 杵築産水産物の消費拡大のためのイベント開催
ハモどんぶり、ハモガイドなどの作成

担 当： 耕地水産課

水産係 河村

TEL： 0978-62-1810（直通）

～参 考～

●機器の導入経費及び負担額	総事業費	13,704,120 円
①3 枚おろし機		6,400,000 円
②骨切機		4,550,000 円
③冷凍・冷蔵施設		1,289,000 円
④運搬設置費		450,000 円
⑤消費税		1,015,120 円
●事業費内訳		
・ 県補助金		4,229,000 円
・ 市補助金		4,229,000 円
・ 県漁協負担		5,426,120 円

* 調印式終了後、ハモ料理の試食を用意しております。

想定質問

①杵築市のハモ・カキの年間の水揚げ量、販売額は？

牡蠣平成28年、130 t（JF 推計値） 71,500,000 円
ハモ平成28年、 t（JF 杵築取扱い）、 円

②市外に流通とあるが、これまではどこに流通されていたのか？

- ・ハモ5月～8月中旬まで関西方面へ活魚出荷
8月中旬以降、関西方面に骨切り用や練製品の原魚として取引されている。
- ・牡蠣
大分県内をはじめ長崎県や佐賀県に流通されている。
- ・その他の水産物
受託販売となるので、漁協が大分、別府、中津、福岡、熊本の市場へ運搬している。（受託販売＝漁協が集めた魚を各市場に運び、競り落とされた額から、運搬費等の手数料を差し引いて漁業者に支払う方法）

③県内初の協定とあるが、他の市町村（中津など）はどのようにして地元で流通させているのか？それとも杵築市と同じような状況で、地元で消費されていないのか？

- ・通常は、地方卸売市場から買付や大手水産会社からの仕入れが主である。
- ・一部漁協との直接取引（JF 中津支店はハモの取扱いなし）
- ・商工会が中に入り、漁協と取引をしているところはない。

④ハモ取扱店の設置とあるが・・・

（飲食店に依頼？ 調理実習などするの？）

- ・漁協との直接取引店を1店舗選定する。
- ・この店舗の役割は、市内飲食店からの注文の取りまとめと、一般消費者への直販店の役割を果たす。
- ・骨切りハモについては、急速冷凍機導入までの当分の間、完全受注生産となる。

⑤商工会のハモPRはどのようにして行う？

- ・骨切りハモ取扱い店での「ハモ街道（仮）」を計画中今年9月中旬～11月末まで国道213号、杵築城下町、山香地域（風の郷）
- ・観光協会と共同で「ハモ丼（仮）」の売り出し（10月頃販売開始）

⑥消費拡大のイベントとは？

- ・杵築市水産まつりとハモはも祭りの同時開催